

学校用教材の特徴

～学校での一斉採用の重要性について～

全国の小中学校で使用されるテスト、ドリル、ワーク、資料集などの図書教材・デジタル教材は、次の観点から、主に学年ごとに一斉に採用されることが推奨されています。

①先生による適切な指導と子どもたちの学びをサポート

学校用教材は、先生の指導のもとで、子どもたちの基礎学力と学習習慣の定着を図るために編集された教材です。

学年で同一の教材を採用することで、先生の適切な指導のもとでの効果的な学習が可能となります。先生が適切に子ども一人ひとりの学習進度・理解度を見取ることができるため、クラスの実態を把握し、個別最適な学びのサポートにもつながります。

また、公教育においては、誰一人取り残されない学びの保障の観点からも、公平な学習環境としての教材の一斉採用が重要です。

②先生の校務負担軽減にも貢献

先生方からは、教材を一斉採用して教科書や教師用書とともに授業で活用することで、授業計画や学習指導が行いやすくなり、その結果、校務負担軽減につながっている、との声も多く聞かれます。

③教材費の負担軽減にも配慮

学校用教材は、少しでも価格を抑えて届けられるよう出版社の努力のもと編集・出版されているため、特別な価格で提供されています。質の高い教材を経済面にも配慮しながら届けるためには、一斉採用されることが必要となります。

④学校での著作権トラブルを防ぐ

一斉採用ではなく一部のみの採用になった場合、教材をもっていない子どものために学校で無断複製して使用するケースが見受けられます。教材を無断複製することは、著作権法第35条ただし書きに違反します。このような法的な問題を防ぐためにも、教材の一斉採用が望ましいと考えます。

以上のことから、学校用教材の一斉採用は、先生による指導と子どもたちの学習の質を高め、先生の校務や家庭の教材費の負担軽減に寄与するとともに、学校での著作権トラブルを避ける上でとても大切です。